



適用病害と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	本 剤 の 使用回数	使用方法	硫黄を含む農薬 の総使用回数
麦 類	赤さび病	400～800倍	60～150ℓ/10a	—	散布	—
	赤かび病	400倍				
	うどんこ病	800倍				
も も	黒星病	400～800倍	200～700ℓ/10a			
	うどんこ病	500倍				
ネクタリンめ	黒星病	400～800倍				
か き	うどんこ病	400倍				
り ん ご		400～600倍				
日 本 な し	ニセナシサビダニ	500倍				
か ん き つ	ミカンサビダニ	500～800倍				
か ぼ ち や い ち ご	うどんこ病	500～1000倍	100～300ℓ/10a			
き く	白さび病	800倍				





⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用する。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさける。ただし、かんきつに使用する場合は、石灰硫黄合剤と使用直前の混用は可能である。
- りんごに使用する場合、マシン油乳剤との混用及びマシン油乳剤散布後7日以内の近接散布はさける。
- りんご以外の作物に使用する場合、マシン油乳剤との混用及びマシン油乳剤散布後14日以内の近接散布はさける。
- 気温が高くなるに従って薬害を生じやすくなるので、夏期高温時（28℃以上）の散布はさける。
- ぶどう、うり類（すいか、きゅうり、まくわうり等）など硫黄剤に弱い作物が付近にある場合には、薬害を生じるおそれがあるのでかからないように注意して散布する。
- 日本なしに使用する場合、春期以降で葉の退色・落葉、花卉焼けが生じるおそれがあるので、発芽前までに使用する。
- きくに使用する場合、葉に薬液の汚れが生じるので、収穫間近の散布はさける。
- 本剤は蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

⚠ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。使用後は洗眼する。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…通常の使用方法ではその該当がない。

保 管…密栓し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

